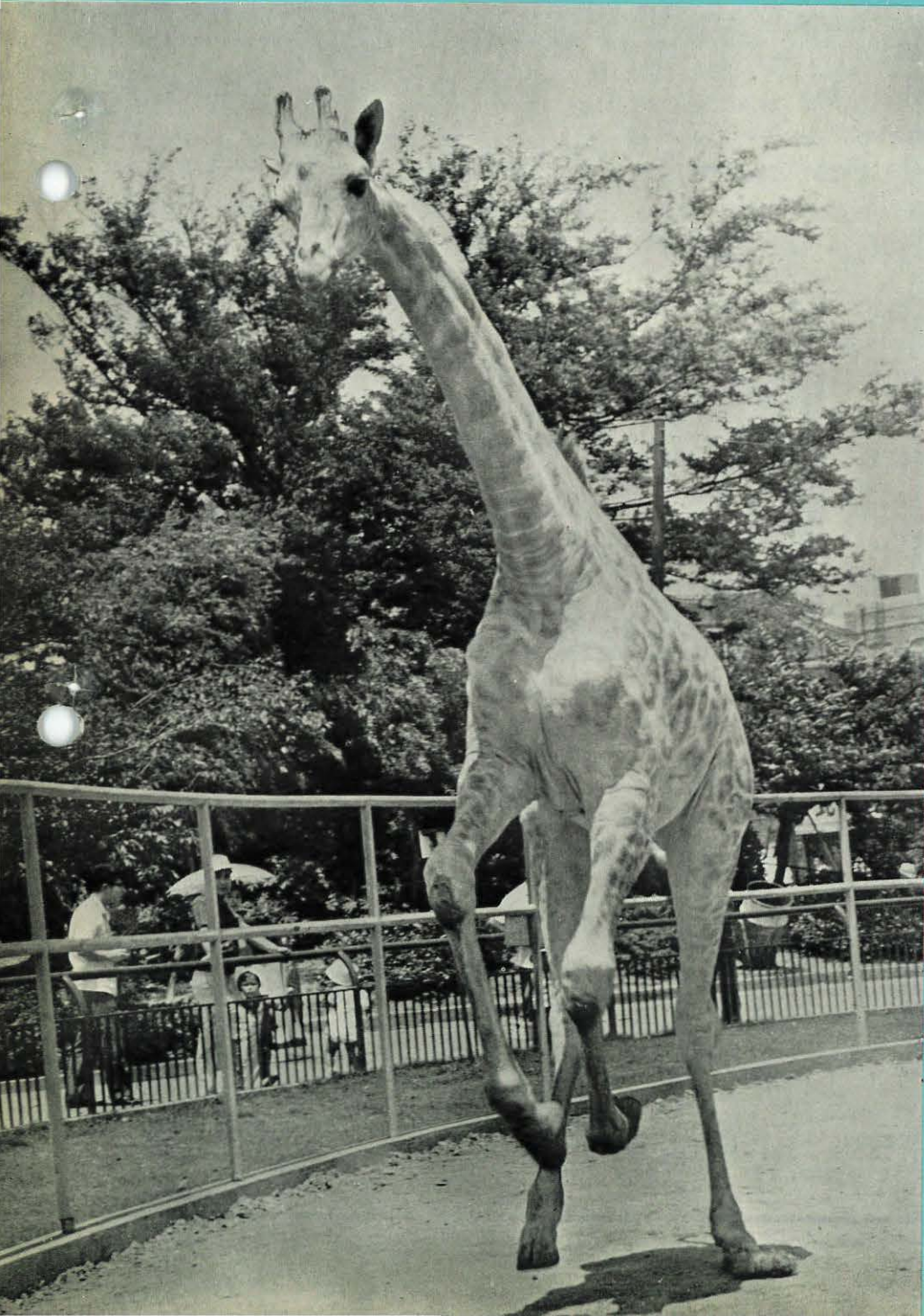


# なきごえ



1966

8

大阪市  
天王寺動物園



# 動物の紹介 (第15回)

## ヌートリヤ

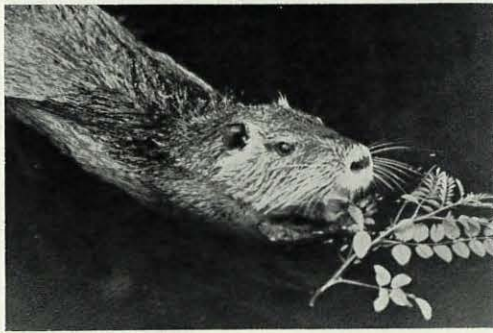
(かいりねずみ) 嚙歯目かいりねずみ科

ヌートリヤは、南米原産でうさぎ大の大ねずみです。日本でも岡山県あたりでは、湿地に独特の穴を掘って自然繁殖しています。

これは、この動物の毛皮がよいため、戦前岡山県で大量人工繁殖が計られたが、その増殖中のものが逃げだして棲みつき現在に至ったものです。

チリー、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチンにわたり棲息し、数亜種に別れる、と記載されています。

日本でも野性で自立するところを見ると、気候に対してかなりの順応性を持っているようです。尾は太くて長く柔軟で、陸上の動作は鈍いですが、泳ぎは上手で水中生活に適していますが、水



辺から 100m 以上離れたところには、殆んど見られないとも書かれていることから、ヌートリヤはカワウソと異った食生活で、採食はもっぱら陸上で行い、水中は彼の逃避場所であるというその生活振りが推測できます

話は変わりますが、よく動物園に何かのクイズ? で水掻きのある動物を教えてください。という問い合わせがあります。水掻きのある動物、それはイタチ科のカワウソ、嚙歯目のビーバー、それにこのヌートリヤの後肢にも立派な水掻きがあるということ覚えておいて下さい。

ヌートリヤは夜行性で、ヨシ、浮草の中で昼寝

をしてもっぱら夜、行動をします。

岡山県では附近の甘藷畑や、にんじん、大根、その他野菜畑を荒すので困ったものだ、という話も聞きます。食物は完全に上述のとおり肉食主義者です。

お産は 1産 1~14仔を産み、生産態勢に乗るとすばらしい繁殖をします。

本園で起った話ですが、昭和35年非常な寒波に襲われ、水槽に氷が終日張りつめたときのことでした、2匹のヌートリヤが次々にたおれたのです。原因を調査したのですが、内臓には何らの変状もなく、病原菌も出てきません。胃にも充分餌

が入っています。しかし四肢が高度の霜やけで、一部皮膚は剥離し、凍傷の症状が明らかでした。察するところ、13°Cの池の湧水と異なる0°C以下の水槽の中で泳ぎすぎたためです。

その後は、きびしい、寒波の来るときは、水槽の水を少くして余り泳ぐ気持ちを起させないようにしてやっています。

(松岡 恵爾)

### 表紙の写真説明

#### 「キリン」

一昨年5月に生まれたあみめきりんのキリーちゃんです。母親と同じくらい大きくなり元気に走りまわっています。

# 飼い方シリーズ (第13回)

## はとの飼い方

はとは平和のシンボルとして人々に親しまれています。はとの仲間は約 400 種あり、日本には 4 種類がすんでいます。そのうちかわらばととよばれるはとを飼いならして家禽とし、利用する目的によって改良が加えられ、伝書ばと、食用ばと、愛玩ばとなどがうまれました。今回ははとの飼いかたを御紹介します。

はと小屋の位置は陽当りのよい場所につくり、その大きさは羽数によってきめますが3つがいですと1×1×1.3m ぐらいの大きさにします。3方を金網張りとして、後方は板張りをします。(図参照) この中に30×30cm ぐらいの大きさに巣房をつかってやります。これは1つがいごとの個室のようなものですが、はとは巣房のより好みをします。夫婦数より多く設けてやります。又、産卵用の巣皿を入れてやります。

飼料は、主として白えんどうとうもろこしの混合したもので、7:3の割合にして与えます。副食として玄米と麻の実を与えます。育雛期や冬などに麻の実を多く与えるのがよろしい。此頃ははとのえさとして小鳥屋にこうしたものを上手に配合したえさが売られていますので、これを利用すると便利です。

つぎに鮎物飼料として「塩土」を与えます。これは、黄土、レンガ末、かきがら、塩、を練り固めたものです。これを容器に入れてはとの自由にまかせて食べさせます。その他、青菜やほこべなどの野草を時々与えて下さい。

それから、はとはかなり多くの水を飲みますので、水を欠さないようにして下さい。又水浴びが好きですから、水浴び用の水漕も備えてやります。

はとの発情期は酷寒と酷暑の時期を除いてほとんど1年中とってよいのですが、あまり回数を多く繁殖させると親の体力が劣えますので、春2回、秋1回ぐらいにして生育のよい仔鳩を生産す

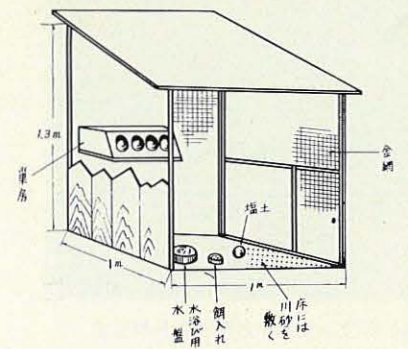
るよう心がけて下さい。

はとは発情するとおすはめすの周りを鳴きながら頭を上げたり下げたりしてまわります。やがて、めすも発情して巣房の中に入るようになりますので、枯れた小枝などを15~20cm ぐらいに折って鳩舎に入れておいてやると、巣皿に運びこんで巣を作ります。1回おきに2卵をうみ、おすとめす交代で抱卵します抱卵中はなるべく静かにしてやるようにします。抱卵期間中は、17~18日です。ひなは親の口に嘴を入れて消化しやすいようになった餌を流し込んでもらいます。1週間ぐらいで、ひなは眼があき25日ぐらいたつと独りで、餌をとるようになります。

はとの病気の主なものは、ミューゲ病、鳩病かぜひき、下痢などがあります。いつも、舎内は美しく清掃し、新しい餌と水を与えて、常にはとの健康に気をつけてやって病気にかゝらないようにしてやって下さい。

病気を発見したときは、直ちに分離して別な場所で治療し病気がひろがらないようにして下さい。

(樽本 勲)



### なきごえ 8月号もくじ

動物の紹介	ヌートリヤ	2
飼い方シリーズ		3
動物園グラフ		4, 5
ペットを訪ねて		6
動物園ニュース		7



# 動物園グラフ

カンカン照りの毎日が続いています

人は、海や山に涼を求めて都会を離れ暑い夏をすごします。

しかし動物たちはどのようにしてこの暑い日本の夏を過しているのでしょうか。

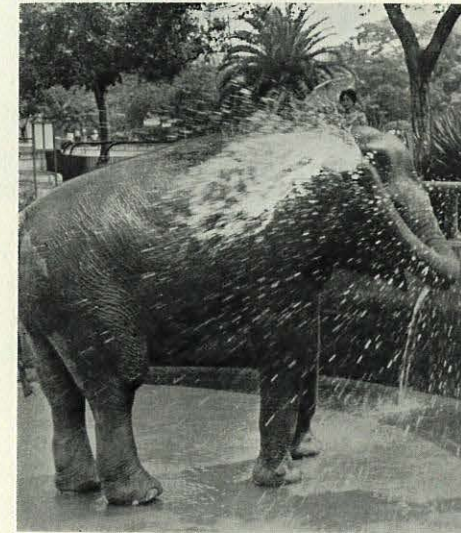
ここに動物たちの消暑法的一端を紹介しましょう。



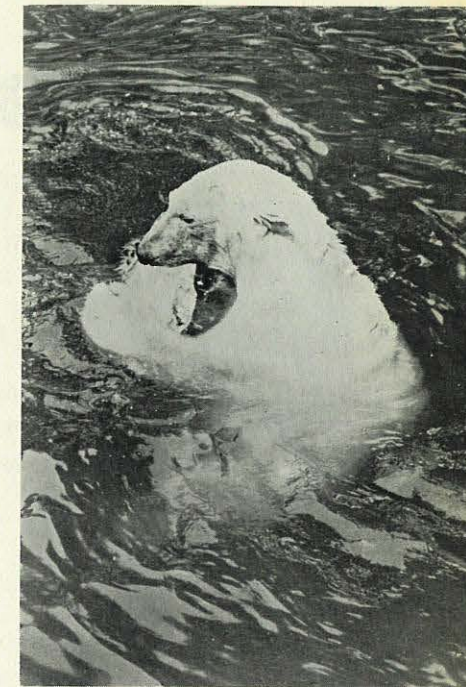
↑プールにとびこんでジャブジャブごきげんのひぐま君



←ワァー暑くてたまらん水をがぶのみするゴリラ ついでにおしりも冷してと……



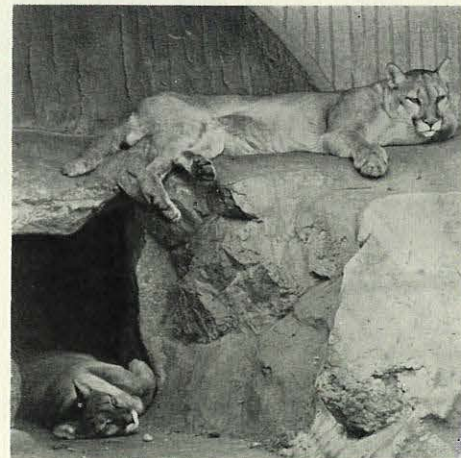
↑得意のはなホースの水あびでからだをひやすぞうさん



↑動物園一の暑がりやはしろくま君 プールに入って水にかぶりついています



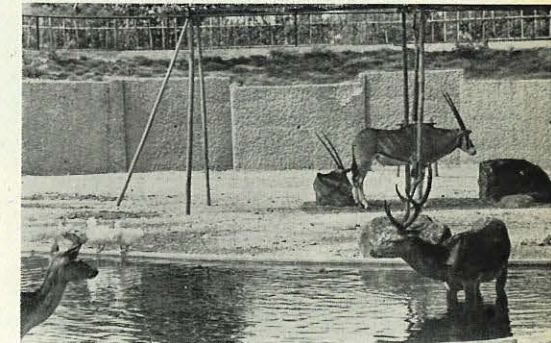
↑暑い陽ざしをさけて木陰で「真夏の昼の夢」を喰うばく



↑こんなに暑くてはひるねにかぎる!! ビューマ夫婦



↑早くプールにはいらぬか? とくろさい君



↑よしずの日陰に憩うオリックスと思わずプールに飛びこんだはなしか夫婦



↑水泳が得意のとら君 水から上るとひるねをするのが日課です

## 7月 動物園日記

- 大雨でボイラー室に浸水しました。しかし動物たちは皆無事でした。
- ヨーロッパこうのとりひなが、初飛翔し、池に降りて餌をあさっていました。
- 今年第1番目のはなしかが生まれましたが、おいしいことにすぐ死にました。
- 再度の集中豪雨で、北園一帯が水没しましたので、臨時休

園としました。

- カンガルーが赤ちゃんを育児袋から出してしまいましたので、人工哺乳を始めました。
- 2頭目のはなしかが生まれました。元気に育っています。
- てながざるの1頭が下痢していますので、治療を続けています。
- 宇部、大阪間の定期航空路開設を記念して、親善動物交換を行いました。
- 大阪市からは、おながきと、きじぼとを贈り、宇部市か

らはインドくじやくが贈られてきました。

- アイスランドから、水鳥の卵を輸入して電気ふ卵器に入れていましたが、きんくろはじろ1羽とおかよしがも2羽がふ化しました。
- 今夏最高の暑さを記録しました。(35.3°C) ゴリラもたまたま水に飛び込み、大はしやぎしていました。
- インドやまあらしが、赤ちゃんをうみました。元気に育っています。
- 町の動物愛好家から、しろくまとペンギンに、たくさんの

氷のプレゼントが届けられました。暑さにうだっていたしろくま君は大喜びです。

- 永らく動物園で活躍していたオリックスのめすが、動物交換で他の動物園に送られました。かわりに新しいオリックス夫婦がかもしか園でお目見得しています。



# ペットを訪ねて

北アルプスが育ててくれる雷鳥を写してくるといって、東、大野両君が勇ましい姿で出かけたのは7月8日のことでした。当時は雨が多かったので、いささか心配でしたが、なかなか立派な写真が出来ております。

両君の苦闘のあとが十分に伺えます。今回はその探訪記を皆様にご紹介することにしました。

北アルプスに雷鳥を訪ねて

特別天然記念物雷鳥は、氷河時代の遺存動物として、現在では日本アルプスの標高2400m以上の高地のみに生息する非常に貴重な鳥ですが、私たちは最も生息数の多いといわれている北アルプス後立山連峰を訪ねてみました。

7月とはいえ、まだまだ多くの雪渓を残し、ミヤマキンバイ・チングルマ・クロユリ等の高山植物が開き、ようやく春が来たという感じです。

待望の雷鳥を私達が最初に発見したのは、八方尾根第2ケルン附近の茂みで採食中のおすでした。大きさは鳩ぐらい、色は黒褐色で腹部と背中のところどころは白色でした。そして目の上に小さな肉冠があります。

その日は、あいにくの悪天で雨風が激しく、おまけにガスがかかって視界は10m内外という状態でした。果してこんな日に雷鳥が見られるかどうか心配でしたが、運よく少しガスが晴れた時、前方に発見、私たちは急に目の前に現われた雷鳥に驚ろき、今までの疲れも忘れて夢中でシャッターを切りました。

やがて私たちを有頂天にした雷鳥は雪の上を走るように逃げて行き再びおおわれたガスで見えなくなってしまいました。消えて行った雷鳥を見送りながら、しばらくは初めて見た喜びを味わうと共に、この小さな鳥が、なぜかすぐたくましく思えてなりません。

それから天候はいぜんとしてよくなりませんが、ここから一時間程登ったところで一羽、同じくおすをみる事ができました。これらこの日見たおすはテリトリーの警戒や防衛にあたっていたものと思われま。

次の日は、昨日の風雨もおさまり、軽い霧雨のみで、これも出発して1時間位して殆んどやみ、ところどころに青空が顔を出すという状態で、西方には立山、剣岳などの高峰が雪をかぶり白く光っておりました。急な岩場の連続を過ぎ、大黒岳に至るなだらかなコル部を歩いていると、足元でピョピョと鳴く声があるので、ふとはいまつの方を見るとフ化後間もないと思われるヒナが飛び出して来たのです。一羽二羽……全部で六羽、それに母鳥、ヒナたちは突然現われた人間にびっくり



したのか、もたつきながらも急いで母さんの方へ逃げて行きます。それでも2~3羽遅れるのがいて、母鳥は時々後をむいては立ち止り、私達を威嚇しながらヒナたちを集めています。できるだけ驚ろかないようにカメラの用意をしながら観察しました。

めすの色は薄茶色、目の上の肉冠はありません。ヒナはキジのそれによく似ておりますが、趾まで羽毛におおわれているのが特徴でしょう。この親子連れは暫らくすると少し離れたところで落ちついてくれたので、充分観察やカメラに収めることができました。それから少し行ったところで又、ヒナを6羽連れているめすを発見。ヒナの大きさも前回のと余り変わらず、同じ頃フ化したものと思われま。さらに冷池小屋附近でおす。ずっと行った爺ヶ岳で採食中の一番を見ることができました。

元来雷鳥は、キジ科では珍らしく一夫一婦で、抱卵中めすが採食にでると必ずおすがその代りをするというなかなかの愛妻家です。しかしこのおすも卵がフ化すると、今まで一緒にいた妻とも別れ、テリトリーもすてて、おすたちは集団で生活をするそうです。

この雷鳥も最近では、登山者の激増と観光開発のため、生息適地が著しく減り、その保存に問題があるといわれております。

しかし36年から3ヶ年にわたり、地元大町市や信州大学などの手によって、ここ後立山連峰において熱心に調査され、長い間解明できなかった生態が明らかにされ、保護のため貴重な資料が出されました。

さらに白馬岳から富士山に移したのが繁殖するなどの、明かるいニュースもあります。これからもこの愛すべき雷鳥が絶滅するようにならないよう、注意し守っていききたいものです。

写真 東 政 宏  
文 大 野 尊 信

# 動物園ニュース

## 珍鳥「セリーマ夫妻」入園

南米はブラジルの首都リオデジャネイロから空輸され、7月25日当園に着きました。南米特産のこの鳥は日本の動物園ではなかなか入手し難いため馴染みがうすく、和名がないのもそのあたりに由来するのかもしれない。本園でも昭和13年に飼育



珍鳥「セリーマ夫妻」入園

された記録がありますが間もなく死んでおり、28年振りのお目見得です。現在日本では当園だけ。鶴目に属しますが細くて長い足がそれを思わす位で、鋭い目つき、短かく、先のとがった赤色の嘴、枯れた茶色の羽毛はむしろワシの感じ、体高60~70cm。飛ぶ力はほとんどなくて鶏の「バタバタ飛行」程度。そのかわり飛ぶように早く走る。嘴からもわかるように肉食鳥で相当な「悪食家」。昆虫や蛇を常食としている。当園では小あじ、鯨肉を与えている。「鶴仲間長屋」の一角に落ち着きましたが、「あれで私達鶴の仲間だなんて本当かしら」とは、鶴仲間でもエレガントな姿態では定評のある隣の羽衣鶴の「言い分」？。

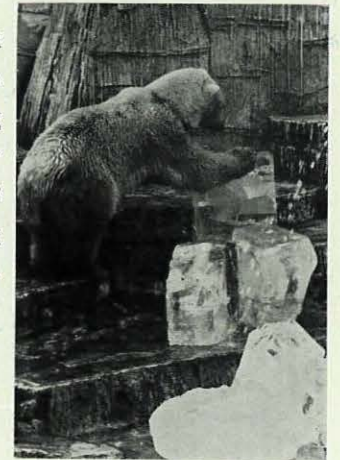
## シロクマにプレゼント

7月26日朝、シロクマの若夫婦に氷のお中元(700kg)が届けられました。

届出主は動物園のすぐ隣の浪速区恵美須町で氷会社を経営する足立俊治(59)さん。

去年の春入園したばかりで日本の夏はまだ2度目の経験なのに、例年になく猛暑続きにグロッキー気味だった北極の王者しろくまさんも思わぬ贈り物に大喜び。

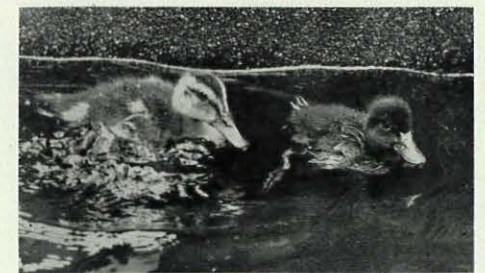
ジャレたり、クワエたり、水に浮かべて抱きついたり。とけて流れてなくなるまで1時間程でしたが、しばし生まれ故郷の感触を楽しみました。



シロクマにプレゼント

## かもの人工ふ化に成功

野生の鳥の保護増殖が叫ばれていますが、当園では今年からアイスランド野生の鴨の卵を取り寄せ人工ふ化を始めました。



かもの人工ふ化に成功  
(左おかよしがも 右キンクロハジロ)  
7月20日撮影

今年輸入したのは、きんくろはじろ6コ、おかよしがも4コ、すゝがも3コ、ほゝじろがも2コの計15コでした。

このうち7月14日におかよしがも2羽と、きんくろはじろ1羽がふ化に成功しました。惜しいことにおかよしがもの1羽が死にましたが、現在2羽が元気で育っています。やはり鴨の子で水泳は得意。写真のように元気におよぎまわっています。



なきごえ 昭和41年8月15日発行（毎月1回15日発行）第2巻第8号（通巻16号）

編集人 / 和田辰巳 発行所 / 大阪市天王寺動物園協力会 大阪市天王寺区王水町2電話大阪771-8401

定価 40円

